

平成30年度 学校関係者評価(年度末) 愛南町立内海中学校

〔評価基準 A-目標値の80%以上達成 B-目標値の70%以上達成 C-目標値の60%以上達成 D-目標値の59%以下〕 【アンケート結果 4-そう思う 3-ややそう思う 2-あまり思わない 1-思わない】

項目	経営の重点 ○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び 改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)				
								4	3	2	1	
1 教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上 ○ 確かな学力の向上	生徒に思考力・判断力・表現力等の向上を目指し、確かな学力の向上を図ることができたか。(わかる授業の推進)	中間期	A	◇ペア学習の習慣化、補充学習や学習トライアル、研究授業や見守り授業の実践によって、学力は定着しつつあるが、教科間の学力差や生徒間の学力差をなくすことが課題である。 ◆校内研修を充実させ、組織的な取組をさらに強化し、教科間の連携を図るよう努めたい。	教職員アンケート	3.1	10%	90%	0%	0%	
						生徒アンケート	3.3	46%	42%	4%	8%	
		目標値:教職員、生徒の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇ペア学習の習慣化がこれまで以上に定着してきた。定期テストでの記述式問題を多くするなどの取組によって、思考力・表現力が高まり、どうにかして考えて解答しようという意欲が見られるようになった。 ◆研究授業や見守り授業が一時期に集中する傾向にあり、年度当初の計画通りに進めていく必要がある。教科間の連携をさらに密にして、学校全体で取り組む体制を強化していく。	教職員アンケート	3.1	20%	70%	10%	0%	
						生徒アンケート	3.2	27%	69%	4%	0%	
	○ 言語活動・体験活動の充実	言語活動・体験活動の充実と教育内容の確実な実施に努めることができたか。	中間期	A	◇伝え合う力を育てるために、言語活動の充実を図ってきた。また、海学習など総合的な学習の時間や学校行事、委員会活動を中心として体験活動を多く取り入れ、実践力を高めるように努めた結果、その成果は表れている。 ◆マンネリ化を防止するため、新しい取組を取り入れつつ、無駄なものは取りやめるなど、活動の見直しを図りたい。	教職員アンケート	3.4	40%	60%	0%	0%	
						年度末	A	◇授業改善を図り、話し合い活動や調査活動を通じて、表現力を高めることで言語活動の充実を図ってきた。また、運動会や文化祭などの学校行事への取組を通じて、体験活動に積極的に取り組ませ、問題解決能力の育成を図ってきた。 ◆事前指導を計画的に綿密に行うことで、生徒の意欲を高め、自主的に言語活動や体験活動を行うようにしていきたい。	教職員アンケート	3.4	40%	60%
		○ 家庭学習・読書活動の習慣化	家庭学習や読書活動の習慣化に努めることができたか。	中間期	B	◇内中タイムで学習の仕方を伝えたり、授業ノートの評価、賞賛を行うなど、家庭学習定着への手立てを講じてきた。教職員、生徒、保護者ともに評価は低く、目標値には届かなかった。 ◆2学期は自主ノートコンテストを行い、賞賛、評価、保護者への連絡等、定着への手立てを講じ、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ◇結果はB判定だが、H29年度は教職員、生徒は2.7ポイント、保護者は2.6ポイントだった。少しずつではあるが、向上している。保護者の評価の変化が少ないということは、家庭で読書をしている姿が見られないためだろう。 ◆今後も図書日より等啓発活動を行っていく。	教職員アンケート	2.9	20%	50%	30%	0%
							生徒アンケート	2.9	23%	54%	12%	12%
	目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA		年度末	B	◇1学期の授業ノートコンテストに続き、自主ノートコンテストを行い、家庭学習定着への手立てを行った。各学級で自主ノートも継続して行い、中間期よりは評価が上がっているが、まだ不十分である。 ◆評価が低い生徒に対して、家庭学習の習慣を少しでも身に付けさせるために、個人的に指導していく必要がある。宿題の量や方法についても考えていく必要がある。 ◇結果はB判定だが、中間期と比べると、教職員、生徒、保護者と少しずつではあるが向上している。全校で取り組む読破運動を実施し、啓発に努めたことがポイントアップにつながったと思われる。 ◆今後も図書日より等啓発活動を行っていく。	教職員アンケート	3.0	10%	80%	10%	0%	
						生徒アンケート	3.0	38%	35%	19%	8%	
	保護者アンケート	2.7	26%	30%	30%	15%						
		2.8	27%	46%	12%	15%						
学校関係者評価員の所見	インターネットにつながったゲームをすることにより、学習時間や読書量が乏しい。教科間で情報交換を密にし連携を図ることで、更なる工夫ができるのではないか。			学校の対応	ノーテレビやノーゲームデーの導入など、家庭学習を習慣化する手立てを講じたい。今後も少人数の強みを生かし、全員がわかる授業を目指して、評価の低い生徒への支援の手立てを工夫していきたい。							
心の教育の推進 ○ 豊かな心の醸成	道徳的判断力を高め、豊かな心情及び道徳的实践力の育成に努めることができたか。	中間期	B	◇結果はB判定だが、H29年度は2.9ポイントと少しずつではあるが向上している。 ◆教科化に向けて、今後も道徳の授業の研究授業を積極的に行い、授業力の向上を図る。	教職員アンケート	3.1	30%	50%	20%	0%		
					年度末	B	◇結果はB判定だが、3の「ややそう思う」のポイントがアップしている。全ての教育活動を通して、道徳的实践力を育成してきたからだと思われる。 ◆今後もすべての教育活動で道徳的实践力を育成していく。	教職員アンケート	3.1	20%	70%	10%
○ 道徳の授業の充実	道徳教育の充実に努めることができたか。	中間期	A	◇教科化に向けての取組がA評価になったと考えられる。 ◆今後も道徳の時間の授業改善、他教科等における取組、環境づくり、家庭・地域との連携などに分けて、具体的に取組んでいく。	教職員アンケート	3.2	40%	40%	20%	0%		
					年度末	A	◇道徳の教科化に向けて研修の充実が図れた。これらの教科化に向けての取組が継続したA評価につながった。 ◆研究授業や出前講座などを行ったことを生かして来年度の方向性を考えていく。	教職員アンケート	3.2	30%	60%	10%
学校関係者評価員の所見	全ての教育活動の中での取組を目指してほしい。			学校の対応	今後も、道徳の研究授業や研修を計画的に行い、取組を充実させたい。重点項目を柱にして、全ての教育活動の中で、豊かな心が育つような工夫を行っていきたい。							

項目	経営の重点 ○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び 改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
1 教育課程・学習指導	特別支援教育の充実 ○ 特別支援教育推進体制の確立	特別支援教育コーディネーターを中心とした校内推進体制の強化、充実を図ることができたか。  目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇支援を要する生徒についての共通理解や手立てが不十分であることがB評価につながったのではない。 ◆2学期は、各学級で支援が必要な生徒について個別の指導計画を立てて全教職員が共通理解のもと取り組む。	教職員アンケート	3.1	30%	50%	20%	0%
			年度末	A	◇支援が必要な生徒に対する個別の指導計画の作成を行い、全教職員が共通理解のもと取り組むことができた。校内推進体制の強化も進み、日ごろから意識して情報交換ができています。 ◆支援を必要とする生徒への支援の手立てについて更に研究を進めていきたい。	教職員アンケート	3.2	40%	40%	20%	0%
	人権・同和教育の推進 ○ いじめ防止	「学校いじめ防止対策基本方針」の周知と具現化に努め、いじめは許さないという強い気持ちを育てることができたか。  目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇各教員が管理職、生徒指導と連携し、いじめの芽に対応できていることがA評価につながったと考えられる。 ◆今後も教育活動全体を通していじめを許さないことを指導していく。	教職員アンケート	3.3	40%	50%	10%	0%
			年度末	A	◇1年間通じて、各教員が管理職、生徒指導と連携し、早期に対応できている。 ◆今後も早期対応を心がけていきたい。	教職員アンケート	3.3	30%	70%	0%	0%
	○ 人権尊重の精神に育成	全教育活動の中で人権尊重の精神を養い、「差別しない」「差別に負けない」「差別を許さない」生徒を育成することに努めることができたか。  目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇教育活動全体を通して、人権が尊重される学習活動づくり、人間関係づくり、環境づくりに努めていることがA評価につながった。 ◆11月に行われる「校区别人権・同和教育懇談会」に向けて、計画的・組織的な指導を全校体制で行っていく。	教職員アンケート	3.2	30%	60%	10%	0%
			年度末	B	◇人権強調週間及び人権集会で本校の課題である人間関係づくりを中心に学習した。そのため、他の人権問題をなかなか取り上げていない点がB評価につながったと思われる。 ◆今後、多様な人権問題についての学習を計画的・組織的に指導していく。	教職員アンケート	3.1	20%	70%	10%	0%
	○ 人権・同和教育の視点に立った学級経営	相手の立場を理解し、互いを思いやる暖かい人間関係を構築することができたか。  目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇縦割り班活動を充実させ、思いやりのある温かい人間関係の構築に努めてきたことがA評価につながったと考えられる。 ◆運動会や文化祭など、縦割り班で行う感動のある行事を通して、相手の立場を理解し、認め合い、高め合い、支え合っていく集団づくりに努める。	教職員アンケート	3.0	10%	80%	10%	0%
						生徒アンケート	3.6	62%	35%	4%	0%
			年度末	A	◇人権強調週間及び人権集会で本校の課題である人間関係づくりを中心に多くの活動を行った。特に、生徒のアンケート結果の伸びが大きい。思いやりのある温かい人間関係の構築に努めてきたことがA評価につながったと考えられる。 ◆今後も相手の立場を理解し、認め合い、高め合い、支え合っていく集団づくりに努める。	保護者アンケート	3.1	22%	70%	7%	0%
						教職員アンケート	3.2	30%	60%	10%	0%
生徒アンケート	3.8	77%	23%	0%	0%						
保護者アンケート	3.2	30%	67%	0%	4%						
学校関係者評価員の所見	特別支援教育が充実されていてよい。 人権学習において、もっと多様な人権問題を取り上げる工夫をしてはどうか。	学校の対応	引き続き、支援を要する生徒に対して共通理解を図りたい。手立てについては更に研究を進めていきたい。様々な人権問題の学習を取り入れ、人権が尊重される、学習活動、人間関係、環境づくりに努めたい。								
健康教育の充実 ○ 健康的な生活習慣の確立	家庭と連携し、早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き、手洗いの習慣を定着させることができたか。  目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇歯みがきについては6・11月と継続して、赤染め検査・歯みがき指導等を実施した。また、食育指導は全校給食時のワンポイント指導を中心に、全校放送での啓発活動も実施している。しかし、昨年度より平均点が下がっているのでマンネリ化していると考えられる。 ◆生徒や保護者に対する啓発活動を継続し、生徒には根気強く個別指導に努め、保護者には、一方通行の啓発活動となるが、関心をもってもらえるよう工夫をしていく。食育指導は、新しくおにぎり弁当の日に挑戦する。	教職員アンケート	2.7	0%	70%	30%	0%	
					生徒アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.9	31%	31%	35%	4%	
					生徒アンケート歯磨き、手洗い	3.2	27%	62%	12%	0%	
					保護者アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.5	19%	30%	33%	19%	
	家庭と連携し、早寝、早起き、朝ご飯、歯磨き、手洗いの習慣を定着させることができたか。  目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	年度末	B	◇早寝・早起き・朝ごはんについては、保健だよりでの啓発や生活調べで生徒の実態を把握する活動しかしていないので改善されていないと考える。歯磨き・手洗いについてはこのまま、継続した指導を続ける。 ◆早寝・早起き・朝ごはんについては、家庭の協力が必要なので簡単に改善できる方法や意欲をわかせるような情報を紹介するとともに生徒への個別指導を行っていききたい。一方通行の啓発になりがちなので保護者の来校時には機会をとらえてアプローチするように努める。	保護者アンケート歯磨き、手洗い	2.7	7%	59%	30%	4%	
					教職員アンケート	3.1	20%	70%	10%	0%	
					生徒アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.8	8%	65%	23%	4%	
					生徒アンケート歯磨き、手洗い	3.3	36%	56%	8%	0%	
保護者アンケート早寝、早起き、朝ご飯	2.6	15%	44%	30%	11%						
保護者アンケート歯磨き、手洗い	2.7	22%	41%	26%	11%						

項目	経営の重点 ○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
1 教育課程・学習指導	環境教育・福祉教育の推進 ○ 環境教育の推進	「海学習」の充実・深化を図りながら、家庭・地域と連携した環境教育を推進することができたか。  目標値：教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇海学習は、学年の系統性を図つたり、事前の打ち合わせを密にしたりするなど生徒にとって意味のある活動となるように工夫してきた。その結果、意欲的に取り組み、地域の環境について興味関心を持つ傾向にある。 ◆海学習だけでなく、清掃活動やボランティア活動の充実などにも力を入れていきたい。  ◇今年度の海学習は、黒潮研究所から複数の講師を招き、充実した活動を行うことができた。生徒も大変意欲的に取り組み、調査結果をまとめ、文化祭で立派に発表できた。 ◆学習環境委員などの委員会活動を通して、清掃活動やボランティア活動の工夫・充実を図ってきたい。	教職員アンケート	3.6	70%	20%	10%	0%
						生徒アンケート	3.9	88%	12%	0%	0%
						保護者アンケート	3.3	37%	59%	4%	0%
			年度末	A		教職員アンケート	3.5	60%	30%	10%	0%
						生徒アンケート	3.7	73%	27%	0%	0%
						保護者アンケート	3.6	56%	44%	0%	0%
	○ ボランティア活動の推進	地域の一人としてのボランティア活動の推進を図ることができたか。  目標値：教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇1学期に通学路清掃を行い、地域、保護者とともに生徒も参加した。夏休みのビーチクリーンは悪天候のため中止となった。学級委員会の呼びかけによる、「ちょこっとボランティア」も定期的に行うことができた。 ◆A評価となっているが、地域ボランティアの機会は多くないので、通信等を利用してボランティアの呼びかけや生徒の活動を知らせ、学校・保護者・地域が連携して、地域に貢献できる生徒を育てていきたい。  ◇2学期以降は、地域とともに行うボランティア活動はなかったが、学級・図書委員を中心として「ちょこっとボランティア」を継続し、文化まつり時には「西日本豪雨災害募金」への呼びかけも行うことができた。 ◆地域ボランティアの機会は多くないので、運動会や文化まつりなど、地域とともに行う行事などを利用して、ボランティア活動の実践や呼びかけを行ってきたい。	教職員アンケート	2.9	10%	70%	20%	0%
						生徒アンケート	3.7	73%	19%	8%	0%
						保護者アンケート	3.2	33%	56%	11%	0%
			年度末	A		教職員アンケート	2.8	0%	80%	20%	0%
生徒アンケート						3.7	69%	27%	4%	0%	
保護者アンケート						3.3	42%	42%	15%	0%	
学校関係者評価員の所見	健康教育の充実に関して、取組がマンネリ化していないか。関心をもってもらう工夫を。海学習は特色のある取組でよい。地域と一緒にするボランティアもあるのではないか。	学校の対応	早寝・早起き・朝ごはんについて、個別の指導を充実させていくとともに、家庭への啓発の仕方をさらに工夫したい。今後とも、ビーチクリーン、トレッキング・ザ・空海でのボランティアをはじめ、公民館との連携を密にしていきたい。								

項目	経営の重点 ○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
2 生徒指導	生徒指導の徹底と健全育成 ○ いじめ・不登校の根絶	一人一人の理解に努め、問題の早期発見、早期対応を図ることができたか。  目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇学校生活アンケート、教育相談の実施、継続等で、いじめや生徒の悩み等の早期発見、早期対応を目指してきたことが、一定の評価につながったのではないかと。 ◆今後も継続していくこと、教師それぞれが更に生徒理解に努めることが重要。	教職員アンケート	3.4	40%	60%	0%	0%
			年度末	A	◇学校生活アンケート、見守り活動、教育相談等でいじめや生徒の悩み等の早期発見、早期対応を目指してきたことが、生徒同士のトラブルや問題行動を予防した一因であると考え。 ◆今後も継続していくこと、教師それぞれが更に生徒理解に努めることが重要。SNSやオンラインゲームでの生徒間のやり取りにも注意していきたい。	教職員アンケート	3.6	60%	40%	0%	0%
	○ たくましさの強化	挑む心を育むたくましさ(意力・体力)の強化に努めることができたか。  目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇部活動において、総体や各種大会に全力で取り組むことができたが、結果が見えにくい事柄に対して意欲的になれない生徒がいることに課題を感じる。 ◆生徒が、自分に合った目標を設定し実践していく。半年後、一年後の自分を想像して、主体的に行動できる生徒を育てることが大切。	教職員アンケート	3.0	0%	###	0%	0%
			年度末	B	◇部活動では、3年生引退後、各部とも人数が減り、選手の目的意識が変わってきたように感じる。併せて、自信のなさ、自分自身に自信が持てない生徒(よって教師の期待ほど努力できない生徒)が多少なりともいるのではないかと。 ◆生徒が、自分に合った目標を設定し実践していく。半年後、一年後の自分を想像して、主体的に行動できる生徒を育てることが大切。	教職員アンケート	2.8	0%	80%	20%	0%
	○ あいさつ運動	生徒会を中心として、地域全体で取り組むあいさつ運動が展開することができたか。  目標値:教職員、保護者、生徒、地域住民の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇継続して「ひにゃんこ」を使った挨拶運動で、地域への呼びかけを行ってきた。また、生徒総会や内中タイムで「あいさつ」について取り上げ、全員で考える機会を設けた。 ◆全てにおいて肯定率が高くなっており、目標値に達している。しかし、保護者、地域の中には「1」の評価もあり、学校以外での取組につながっていない部分もあり、強化していかなければならない課題の一つと考えられる。	教職員アンケート	3.3	30%	70%	0%	0%
						生徒アンケート挨拶	3.3	42%	42%	15%	0%
			年度末	A	◇引き続き「ひにゃんこ」を使ってあいさつ運動を行い、呼びかけを続けている。新生徒会役員も継続して活動している。ただ、まだ学校外での挨拶には十分でないところもある。 ◆ほぼ目標値を達成している。しかし、実際の生徒たちの挨拶にはまだまだ課題がある。新生徒会で挨拶についての話し合いをもち、生徒会だよりやあいさつ運動で更に啓発し、活性化していきたいと考えている。	保護者アンケート挨拶	3.0	30%	44%	19%	7%
						教職員アンケート	3.3	40%	50%	10%	0%
	○ 学校生活の充実	学校生活を楽しく送ることができているか。  目標値:生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇アンケートの結果からも生徒たちは楽しく生活することができている。 ◆楽しく生活するだけでなく、何事にも主体的に活動することができるような課題設定をする必要がある。	生徒アンケート	3.3	42%	50%	4%	4%
						保護者アンケート	3.4	44%	52%	0%	4%
	年度末	A	◇欠席生徒も少なく、アンケート結果からも生徒たちは楽しく生活できている。 ◆相手を思いやる心を更に育て、一人の生徒も苦しむことがなく楽しく学校生活を送れるようにしていきたい。	生徒アンケート	3.5	54%	42%	4%	0%		
				保護者アンケート	3.4	44%	48%	7%	0%		
学校関係者評価員の所見		たくましさの強化について、体力づくりの場を積極的に設定してはどうか。	学校の対応	個別の教育相談の充実を更に強化し、楽しく学校生活を送れる生徒の割合を全員としたい。たくましさについては、個に応じた体力づくりの設定とともに、目標に向かって邁進できる強さをもった生徒を育成する手立てを講じたい。							
3 研修	教職員の資質と指導力の向上 ○ 校内研修の充実	教育活動や校内研修を充実させ、教育専門職としての資質と指導力向上に努めることができたか。  目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇計画的に校内研修の時間を確保していること、見守り授業等への取組がA評価につながったのではないかと。 ◆2学期は、道徳の研究を中心に授業研究を行ったり、主体的・対話的で深い学びについて本校の方向性について考えていきたい。	教職員アンケート	3.2	30%	60%	10%	0%
			年度末	A	◇職員の共通理解がきちんと行われることにより、全教職員で見守り授業・研究授業を実施することができた。また、計画的に校内研修を実施できた。 ◆研究授業等の実施時期が集中した。学期ごとに、計画的に行われるようにする必要がある。	教職員アンケート	3.4	40%	60%	0%	0%
	○ 教師としての人間性と専門性の向上	各種研修に参加し専門職としての資質と力量を高めるために自己研鑽することができたか。  目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	B	◇担当する職務についての研修は行っているが、内容が個人のものだけになってしまうことがB評価になったのではないかと。 ◆それぞれが研修会で学んだことを、校内研修等で紹介し、共有していく。	教職員アンケート	3.0	10%	80%	10%	0%
			年度末	A	◇個々が意欲的に研修に参加し、専門分野の力量を高めるために自己研鑽に努めることができた。 ◆一人の学びが全体に共有できる場の設定をもっと工夫していきたい。また、積極的な研修の参加を引き続き呼びかけたい。	教職員アンケート	3.5	50%	50%	0%	0%
学校関係者評価員の所見		意欲的に行われている様子がわかり安心した。	学校の対応	今後とも一人一人の研修を充実させるとともに、個々の研修が全体で共有できる場をもっと設けていく。							

項目	経営の重点 ○中期の目標	評価指標【成果指標・取組指標】及び目標値	期間	評定	考察(◇)及び 改善方策(◆)	評価資料	平均値	アンケート結果 (%)			
								4	3	2	1
4 安全管理	安全で安心な学校づくり ○ 生徒の安全対応能力の育成	「自分の命は自分で守る」という意識を高め、危機意識や安全確保のために具体的実践力を育てることができたか。  目標値:教職員、生徒の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇生徒の意識は高いが、教員はそこまで到達できているとは考えていない。交通マナーの遵守をはじめ、まだまだ徹底できる部分はあるといえる。 ◆全体指導のできる場を設定するなど、定期的な指導・呼びかけを行っていく。  ◇不審者情報など、事あるごとに指導をおこなってきた。また、通学路の安全点検を定期的に行ったり、危険な箇所のアンケート調査を実施している。 ◆普段の生活の中で、ちょっとした不注意が大きな事故につながるという危機意識をもっと身に付けさせる手立てをとりたい。	教職員アンケート	3.1	20%	70%	10%	0%
						生徒アンケート	3.8	92%	4%	0%	4%
			年度末	A		教職員アンケート	3.3	40%	50%	10%	0%
			生徒アンケート	3.7		73%	23%	0%	4%		
	○ 防災・減災教育の推進	東日本大震災から学ぶ、生きる防災・減災教育の推進を図ることができたか。  目標値:教職員、生徒、保護者の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇砂防学習会が西日本豪雨災害のため中止となり、機会を逃してしまった。生徒の意識は高いので、引き続き機を捉えて適切な指導を行っていききたい。 ◆学校全体で防災教育の時間を設定できるように工夫したい。  ◇定期的に訓練を実施できている。機会をとらえて意識を高めることができた。 ◆内容がマンネリとならないような工夫をしていきたい。また、生徒・保護者・地域への発信をもっと進めていきたい。引き渡しカードなど整備を早急に進めたいと思う。	教職員アンケート	3.1	30%	50%	20%	0%
						生徒アンケート	3.8	85%	12%	4%	0%
			年度末	A		教職員アンケート	3.1	20%	70%	10%	0%
			生徒アンケート	3.8		85%	15%	0%	0%		
	保護者アンケート	3.1	30%	48%	22%	0%					
	保護者アンケート	3.2	46%	38%	8%	8%					
	学校関係者評価員の所見	小学校からの取組を生かし、多様な防災学習に取り組むようにするとよい。	学校の対応	普段からの機を逃さない指導で、意識の高揚を図りたい。避難訓練等がマンネリ化しないよう、更なる工夫を行いたい。引き渡しについて、早急に整備を進めていきたい。							
5 組織・運営に関すること	学校運営の推進 ○ 教職員の信用保持	サービス規律の遵守し、信用保持に努めることができたか。  目標値:教職員の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇高い意識をもって勤務できている。引き続き「ちょっと」「これくらい」という安き考えに流されないよう働きかけていく必要がある。 ◆今後も事あるごとに、サービス規律の遵守と、信用保持について研修を重ねていきたい。  ◇機会をとらえて、サービス規律の遵守を呼びかけている。 ◆引き続き、事あるごとに、研修を積み重ねたい。その際にマンネリにならないよう、心に訴える内容を工夫したい。また、お互いがきちんと意見を言い合える雰囲気づくりに努めていきたい。	教職員アンケート	3.6	60%	40%	0%	0%
						教職員アンケート	3.5	50%	50%	0%	0%
	学校関係者評価員の所見	意識が高くてよい。自動車のスピードの出し過ぎなど更なる注意を。	学校の対応	マンネリとならないよう工夫し、一人一人が高い意識で勤務できるよう、研修の場を設定していく。高い評価に安心することなく、常に危機意識をもつよう呼び掛けていきたい。							
6 家庭・地域との連携	開かれた特色ある学校づくり ○ 家庭や地域との連携の強化	学校の取組みに対する情報発信と情報受信に努めることができたか。  目標値:教職員、保護者、地域住民の80%以上が肯定(平均値3.2以上)でA	中間期	A	◇各種便りやホームページ、まちcomiメールで積極的に発信し、学校の取組や生徒の様子を知らせてきた。 ◆引き続き、内容の充実を図り、保護者や地域の方にとって有益な情報発信源となるようにしたい。  ◇学年通信など定期的に発信できている。今後も引き続き充実を図りたい。ホームページのアップも頻繁に行い、見ていただける数が大幅にアップした。 ◆学校便りの配布等を地域に発信していきたい。	教職員アンケート	3.4	40%	60%	0%	0%
						保護者アンケート	3.4	56%	33%	7%	4%
			年度末	A		地域住民アンケート	3.7	53%	47%	0%	0%
			教職員アンケート	3.6		60%	40%	0%	0%		
		保護者アンケート	3.4	59%	26%	7%	7%				
		地域住民アンケート	3.8	67%	27%	0%	7%				
	学校関係者評価員の所見	学校からの情報発信が多くなり、学校を知る機会が多いのでよい。	学校の対応	ホームページの閲覧数が大きくアップしてきた。今後も充実を図りたい。開かれた学校づくりを目指すべく、引き続き、様々な手段での発信を心掛けたい。							
自由意見	学校関係者評価員の所見	多くの項目で、よい評価になっていてよい。公民館・地域に対して、どんどん要望を出してほしい。協力を惜しまない。	学校の対応	高い評価の項目についても、それに甘えることなく、よりよい学校を目指して、これからも取り組んでいきたい。料理教室・独居老人訪問など、やりたい活動もある。公民館・地域とのつながりを今後も深めていきたい。							